



宮崎国際大学 アクティブ・ラーニング 事例集 vol.2 (国際教養学部・教育学部)



大学教育再生加速プログラム
テーマⅠ・Ⅱ複合型



2020年2月発行

【 内 容 】

アクティブ・ラーニング事例集(第2巻、2020年版)は、下記の内容を記載しています。

1. 事例集パートⅠ [国際教養学部]

- 事例 1：人間関係の諸問題 1
- 事例 2：人間関係の諸問題 2
- 事例 3：数理思考概論
- 事例 4：情報通信技術概論

2. 事例集パートⅡ [教育学部]

- 事例 5：算数科教育法Ⅱ
- 事例 6：理科教育法Ⅰ
- 事例 7：こどもの音楽活動

3. 事例集パートⅢ [産業連携]

- 事例 8：AL を使った地方銀行における英語教育



- 事例 1 人間関係の諸問題 1：「恋愛のカギを探せ」…………… P07
- 事例 2 人間関係の諸問題 2：「被抑圧者の演劇のエクササイズによるバイスタンダー効果のレッスン」…………… P10
- 事例 3 数理思考概論：「ブール論理」…………… P13
- 事例 4 情報通信技術概論：「アンケート調査と分析」…………… P16

【 はじめに 】

グローバル化社会において活躍できる人材の育成を教育目標に掲げ、宮崎国際大学は開学当初からほぼ全ての授業で英語によるアクティブ・ラーニング(AL)を用いた特色ある教育を行っています。平成26年度には、文部科学省の大学教育再生加速プログラム(AP事業)のテーマⅠ(アクティブ・ラーニング)とテーマⅡ(学修成果の可視化)の複合型に採択され、ALによる教授法、学修成果の可視化、卒業の質保証などについて検討を深めてまいりました。

本学のAP事業の目的は、本学教育の主要な学修成果であるクリティカル・シンキング(CT)と英語スキルを可視化して、学修成果を最大化させるALの手法の開発、実践及び体系化を行うことです。今までに本学が開発・体系化したAL手法は33手法あります。その内容については、次頁に示してあります。昨年度から、本学のALを広く知って頂くための事例集を発行しています。

今年度は、事例を国際教養学部だけでなく教育学部および産業連携まで広げ、ALの手法、授業手順、学修成果等でまとめました。また、学修成果を明確にして、教員及び学生のコメントも収録し、授業の手順が分かるように工夫していま

す。英語スキルは、リーディング(R)、ライティング(W)、リスニング(L)、スピーキング(S)、語彙(V)の5つのスキルについて、CT能力は、①重要な情報の特定、②情報の正確性を見極め、③問題解決の方法と攻略法、④情報の分類化、⑤多面的思考、⑥情報の活用、⑦演繹的推論の7つの能力について、それぞれの能力向上に有効なALを用いた授業事例となっています。

国際共通語である英語力の向上がグローバル化の中で重要です。新学習指導要領では小学校の英語教科化、中学校・高等学校での英語コミュニケーション能力の育成、および教育方法としてのALによる主体的、対話的な深い学びが重視されています。本事例集がAL指導法の充実・普及の一助になることを期待しています。

事例集パートⅠ

国際教養学部

パートⅠでは、国際教養学部のAL事例を紹介します。最初に国際教養学部が用いている33のAL手法の紹介があります。33手法は5つの分類に分けて記載してあります。次に4つの事例が紹介されています。各事例では、用いたAL手法、目標とするCT能力、および目標とする英語スキルを示してあります。また、授業での学修成果を達成するための授業手順を分かりやすく解説してあります。ALを体験した教員と学生のコメントも掲載してあります。国際教養学部での英語でのAL手法の実際をご覧頂けます。

【 アクティブラーニングの手法の体系化（宮崎国際大学 国際教養学部） 】

国際教養学部の教員へのインタビュー及び授業観察を実施し、教員が使用しているALの手法を分析し、ALの特性に応じた以下の33種類ALの手法を特定した。

外向き 他者と共に行う学習活動

内向き 思考や記述など、個人で行う学習活動

準備型 事前に準備が必要な学習活動

即興型 その場の状況に応じて展開する学習活動

AL の分類

分類 1

内向き－準備型(全7種類)

1. クリエイティブ・ライティング
2. 自己評価
3. 言い換えや要約の記述
4. フィードバック・アンケート／レポート
5. ジャーナル・ライティング(振り返りの記述)
6. リアクション・ライティング
7. 卒業論文

分類 2

外向き－準備型(全6種類)

1. スキットやドラマ制作
2. ディベートやパネル討論
3. プレゼンテーションやリバーズ・プレゼン
4. 創造的な朗読
5. アンケートやインタビュー
6. ピア・ティーチング

分類 3

内向き－即興型(全5種類)

1. 作文についての筆記による相互評価
2. 熟考する時間
3. アクティブ・リスニング
4. 読解
5. 非言語での言い換えや要約

分類 4

外向き－即興型(全11種類)

1. 対話式講義
2. ファシリテートされたディスカッション
3. 自由討論
4. 事例研究
5. ロールプレイや即興スキット
6. ジグソー・アクティビティ
7. 口頭での言い換えや要約
8. インフォーマルなディベート
9. 質問に対するグループワーク
10. ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア
11. 作文についての口頭での相互評価

分類 5

すべてのカテゴリーに含まれる(4項目)

1. 学生が協力して行うプロジェクト
2. 実地研修やシミュレーション
3. 地域コミュニティーに根ざしたプロジェクト
4. 学生による評価基準の作成

宮崎国際大学のアクティブ・ラーニング手法の説明

国際教養学部で用いているアクティブ・ラーニング(AL)手法(33手法)の詳細について下記に示します。

分類1:内向き－準備型(全7種類)

① クリエイティブ・ライティング

物語の作成、登場人物の発展、その他の文学的要素を用い、考えや感情を記述する。

② 自己評価

教員が作成した授業の評価基準に照らし、学生は自分のパフォーマンスを自己評価する。

③ 言い換えや要約の記述

要点を自分の言葉で言い換えたり、まとめたりして記述する。

④ フィードバック・アンケート／レポート

学期中に数回、又は中間期に、学生は授業についての評価やフィードバックを行う。楽しかったり、効果的だった授業内のアクティビティや取り組みたいアクティビティ、又は、学修効果を向上させるための行動目標に関するフィードバックを行う。

⑤ ジャーナル・ライティング(振り返りの記述)

学生は、授業や課題に対する自分の考え、勉強法、成功や失敗などの様々なトピックについて書く。ここで言うジャーナルとは、振り返りに重点をおいた記述で、文献のリサーチ等は余り必要としない。教員がフィードバック、編集、評価などをする場合もある。スラスラと書く練習なので、通常成績はつけず、文法もチェックしないことが多い。

⑥ リアクション・ライティング

学生は読んだ文章に対して自分の意見を書く。読んだ文章の要約を書いてから、自分の意見を書く場合が多い。

⑦ 卒業論文

学生は文献を読み、詳しい調査を行い、命題、仮説及び研究課題を立て、論文のアウトラインを作成する。担当教員の指導の下、書いては編集・訂正するというサイクルを繰り返し、論文を完成させる。

分類2:外向き－準備型(全6種類)

① スキットやドラマ制作

学生は、クラスメイトと共にクラス全員の前で、与えられたストーリーの台詞を言う。授業外の時間でリハーサルが必要な場合も多い。言語習得が目的の場合は、特定の言語パターンや表現を使う。ドラマ制作では、準備のための十分な時間が与えられ、学生は複数の場面を含む演劇の脚本を作る。演じる学生は1～10人位で、小説の一場面を演劇にすることもある。

② ディベートやパネル討論

学生はあるテーマについて、予め決められた方法で、賛成か反対かに分かれ、議論を進める。大抵の場合、授業外の時間に準備をする時間が与えられ、発言する時間は予め設定されている。パネルディスカッションでは、学生がグループ毎に与えられたテーマについて調べ、クラス全体の前でディスカッションを行う。学生は他のパネルメンバーの見解に対して意見を述べたり、質問したりする。

③ プレゼンテーションやリバーシ・プレゼンテーション

学生は、小グループやクラス全体に対して、個人又はグループで発表をする。プレゼンテーションの内容は、個人又は3～5人のグループで準備し、スライドやポスターを作る場合もある。リバーシ・プレゼンテーションとは、通常の発表と同じように、個人や小グループで内容を準備するが、発表を聴く学生が質問し、それに発表者が答える形で進められる。発表者は、聴衆から質問を上手に引き出す必要もある。

④ 創造的な朗読

個人又はグループで小グループやクラス全体に向けて、丸暗記ではなく、自分の創作を交えながら詩や文章を朗読する。

⑤ アンケートやインタビュー

学生は問いを立て、データを集めるためのアンケートを実施したり、フィールドワークを行ったりする。

⑥ ピア・ティーチング

個人又はグループが先生役となり、小グループやクラス全体に対して、授業を行う。講義型の一方通行な授業でも良いし、ワークショップや参加型のレッスンでも良い。教員が予め準備したパワーポイントを使うなど、ある程度構成される場合もあれば、自由に行う場合もある。

分類3: 内向き－即興型 (全5種類)

① 作文についての筆記による相互評価

学生同士で、作文を見せ合い、互いにコメントし合う。教員や学生が作った作文の評価表を使っても良い。コメントは用紙に記入し、筆者に渡す。

② 熟考する時間

授業中に学んだり、読んだりしたことに対して、学生が振り返り、感想や意見をまとめる時間を取る。

③ アクティブ・リスニング

理解が難解な講義やリスニングの文章について、キーワードや全体的な意味を拾うよう、学生に指示をする。学生は、何度も繰り返し聞くことで、徐々に全体的な意味を聞き取ることができるようになる。

④ 読解

学生は文章を表面的に読むのではなく、文章の意味を深く考える。(詩を読む時などに活用される。)

⑤ 非言語での言い換えや要約

学生は、言語以外の媒体(例えば、図、グラフ、チャート等)で、講義や文章の要点を言い換えたり、まとめたりする。

分類4: 外向き－即興型 (全11種類)

① 対話式講義

学生は頻繁に質問、意見、見解を述べることで義務付けられている中で、教員が講義を行う。

② ファシリテートされたディスカッション

学生1人がファシリテーターとなり、他の学生は、割り当てられた役割を担当し、ファシリテーターの指示に従いディスカッションを行う。

③ 自由討論

決められた時間内に、または時間制限なく、与えられたトピックに関するディスカッションを行う。役割は決められておらず、学生が自由に行う。

④ 事例研究

学生は、教員が提示した事例について深く調査し、最適と思われる解釈や結論を出す。

⑤ ロールプレイや即興スキット

学生は短い演劇での役割を演じる。通常は、授業の中で台本を書き、役を演じるリハーサルを行う。また、即興スキットでは、適切な言葉や表現を使って、与えられた場面を即興で演じる。

⑥ ジグソー・アクティビティ

学生は、お互いに異なる情報を持ち、課題を完成させる為に、お互いの持っている情報を伝え合う。別の方法として、学生はグループ・ディスカッションに参加し、その後、別のグループに移動し、前のディスカッションの内容を報告する。

⑦ 口頭での言い換えや要約

学生は、ある文章を口頭で言い換えたり、自分の言葉で要点を述べる。

⑧ インフォーマルなディベート

学生は、余りルールのない中で、あるテーマに賛成か反対かの意見を自由に述べる。大抵の場合、事前に準備をすることはなく、時間の制限も緩やかである。学生は、どちら側の意見につくかは自分で決めることができる。

⑨ 質問に対するグループワーク

提示された質問に対して、グループで協力して答える。

⑩ ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア

学生は、与えられたトピックに対し、意見、答え、解決案などを考え、パートナーやグループで共有する。共有することで意見などを更にまとめ、更に大きなグループやクラス全体に発表する。

⑪ 作文についての口頭での相互評価

学生は、お互いの作文を評価する評価シートを記入した後、パートナーやグループに対し、評価結果の口頭説明をする。

分類5: すべてのカテゴリーに含まれる (4項目)

① 学生が協力して行うプロジェクト

学生は、大きな課題を分担し、協力して作業する。課題完了後は、クラス全員の前で発表したり、また、レポート、エッセイ、ウェブサイト等として提出する

② 実地研修やシミュレーション

学生は、実際の状況で知識を応用する。例えば、経済学での知識をインターンシップ等で活用する。新しいことを教える手段として、講義の前にシミュレーションを行うこともできる。異文化体験のシミュレーションとして、例えば、日本の人口の半分以上が外国人という場面から、文化や適応について考える。

③ 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト

学生は、個人又は他の学生と協力して、地域社会の中で、ボランティアなどのプロジェクトを行う。

④ 学生による評価基準の作成

課題、パフォーマンス、プロジェクトなどの評価基準を学生自身が作成する。

科目名 人間関係の諸問題 1

ALの
手法

【分類1】クリエイティブ・ライティング
【分類3】アクティブ・リスニング
【分類3】読解
【分類3】熟考する時間
【分類4】質問に対するグループワーク
【分類5】学生が協力して行うプロジェクト

目標とする
英語スキル

★★★
speaking



★★★
Listening



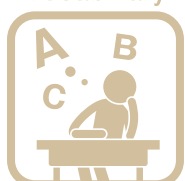
★★★
Reading



★★★
Writing



★★★
Vocabulary



目標とするCT能力

- | | |
|---------------|---------|
| 1 重要な情報の特定 | 5 多面的思考 |
| 2 情報の正確性を見極め | 6 情報の活用 |
| 3 問題解決の方法と攻略法 | 7 演繹的推論 |
| 4 情報の分類化 | |

学修成果

- 1 学生はなぜ人は恋愛し、失恋するのかを学び、自分なりに理解と考えにつなげる。
- 2 学生はお互いに協力して話し合い、与えられた問題を解き、考えを共有する。
- 3 学生は読み、聞き、熟考し、英語でクリエイティブライティングを行い、単語力、文法力、作文力を学習する。



笠井 綾先生

複数の国で学び、働いた経験から、異文化間の対話に興味を持っています。カリフォルニア統合学研究所という専門大学院では表現アーツセラピーにフォーカスしたカウンセリング心理学を学びました。クリエイティブアーツを用いて、個人や社会の癒しとエンパワメント、平和構築などのテーマを楽しく体験的に考えられるようなワークショップをデザインするのが好きです。



ティーム・ティーチング アラン・シンプソン先生

スコットランド出身のアラン・シンプソンです。スコットランドで、電子電気工学の学士を取得し、その後戦闘機のテストシステムエンジニアとして5年間働きました。それから企業チームビルディングとチャリティイベントのコーディネーターを務めてから、日本の民間の英会話学校、次に日本の大手エンジニアリング会社で、英語の教師とトレーナーを務めました。英語教授法の修士号を取得し、ビジネス英語に強い興味があり、研究しています。

アクティビティタイトル 恋愛のカギを探せ

【所要時間】

90分／授業×2回

【この活動に最適な人数】

4名を1グループとし、
16名～20名程度

【必要なもの】

- 1.なぜ人は恋をするのかについての配布資料
- 2.恋愛関係の3つの大切なカギが書かれた紙を校内の色々な場所にテープなどで貼り付ける。
- 3.リーディングの課題を折り紙のハートにしたもの
- 4.七夕の短冊

授業手順

01

最初になぜ人は恋をするのかについての講義を聞く。

02

なぞなぞを読んで解き、答えが隠された場所を探す。

なぞなぞ1:朝ごはんはシリアルを食べるのが好き、でもお箸で食べるのは難しい。箱の中には、たくさんの鍵盤が。良い音がする。



答え1 「スプーン」という名前のカフェのピアノの中

03



宝探し形式で、恋愛関係の3つの大切なカギを見つけさせる。クラスを4人1組グループに分け、それぞれ学内の各所に分散させ、宝探しのタスクをスタートする。

04

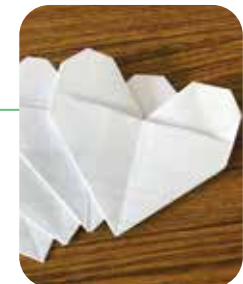
なぞなぞ2:ある女の子は勉強で忙しくて、友達をつくる暇もなかった。ある日彼女は男の子に出会い恋に落ちた。でも、そのせいで勉強に集中できなくなった。それで彼女の父親は怒ってしまい、1年に1度、宿題を終わらせた後にしか彼と会わせてくれなかった。



答え2 ラウンジの七夕の笹

各隠し場所に、恋愛関係のカギがひとつ書かれたメモが置かれている。学生はそれを読み、恋愛の3つのカギについて理解し、考えたことをノートに取る。

05



次の授業で、学生には、人と親しくなるヒントが書かれた折り紙のハートが渡される。学生はワークシートの空欄を埋めなければならない。

06

なぞなぞ3:宮崎国際大学の創始者です。



答え3 1号館の大坪氏の肖像画

なぜ恋愛は終わってしまうこともあるのか意見を出し合い、ホワイトボードに書き出す。



【アクティビティの分析レポート】



アラン・シンプソン 先生

教員のコメント

校舎全体を教室に！ 体を使い、集中力アップ！

テーマは恋愛についてだったので、当然ながら学生は最初から興味を示し、もっと学ぼうとする姿勢を示した。宝探しで実際に身体を動かすことで、学生のやる気や興味を刺激できた。なぞなぞを解くためにはチームワークが要求され、また恋愛関係における重要な要素に関しての理解も深まった。

今回の授業で、学生のやる気がアップし、読解の課題にも集中することができ、よく熟考された良い作文が書けていた。学生は洞察力に富んでおり、人生においてどれほど恋愛が重要なものかを良く理解していた。能動的学習の素晴らしい成果が示された。

学生のコメント

スピーキングスキルが向上

この授業では、ワークシートのヒントをもとにグループ内で協力しながら、大学内に隠されたキーワードを見つけ、愛の関係について学びました。先生からの指示を聞き、最初は何をするのか理解できなかったけれど、文章の意味を深く考えたりしたことで、楽しみながら見つけることができました。私たちは、キーワードがどこにあるのかたくさんの意見を出し合いました。

英語力の観点では、英語の文章を読解するリーディングスキルとグループ内で多くの単語を使って会話するスピーキングスキルが向上したと思います。実践的な英語を日本にしながら使えるのは宮崎国際大学の強みです。また、クリティカル・シンキングの観点では、キーワードの答えを特定しながらも視野を広く持ち、違う可能性も考えられるのではないかなど適切に分析しながら答えを導きました。

このことにより、思考力がついたと思います。今回のアクティビティを通して意思疎通の大切さと客観的なものの見方の重要性を感じました。これらは、社会に出たときに必要であり、このようなAL手法を通して即戦力として社会に貢献できる準備を続けていきたいです。



国際教養学部2年
甲斐 翔太さん

国際教養学部2年
池田 真子さん

事例 02

科目名 人間関係の諸問題 2

ALの 手法

- 【分類1】ジャーナル・ライティング(振り返りの記述)
- 【分類3】熟考する時間
- 【分類4】ロールプレイ、ファシリテートされたディスカッション、対話式講義
- 【分類5】シミュレーション、学生が協力して行うプロジェクト

目標とする 英語スキル

★★★
speaking



★★★
Listening



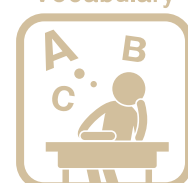
★★★
Reading



★★★
Writing



★★★
Vocabulary



目標とするCT能力

- 1 重要な情報の特定
- 2 情報の正確性を見極め
- 3 問題解決の方法と攻略法
- 4 情報の分類化
- 5 多面的思考
- 6 情報の活用
- 7 演繹的推論

学修成果

このレッスンでは、被抑圧者の演劇(Boal, 1985)の「コロンビアン・ヒプノシス」(Boal, 2002, pp.51)と呼ばれる演劇エクササイズを使って人と人の力関係や上下関係について考察する。このエクササイズのバリエーションは、世界中の教員やファシリテータによって応用されており、いじめなどの人間関係のテーマの探求や考察によく用いられる。このレッスンでは、特にバイスタンダー効果(Darley & Latané, 1968)を可視化し、参加者はアクティブなバイスタンダーとしての問題解決方法を自ら考え実行する。参加者は創造的な解決方法をまず体を動かしながら開発し、次にそのシンボリックな解決方法を人々の人生や社会の中で起こる実際の問題解決に応用できるか考えディスカッションや作文を行う。

※注釈 「ヒプノシス＝催眠」というのはユーモアを持って付けられたエクササイズの名前であって、実際に催眠術のようなことをするのはないので、ご安心を！



笠井 綾先生

複数の国で学び、働いた経験から、異文化間の対話に興味を持っています。カリフォルニア統合学研究所という専門大学院では表現アーツセラピーにフォーカスしたカウンセリング心理学を学びました。クリエイティブアーツを用いて、個人や社会の癒しとエンパワメント、平和構築などのテーマを楽しく体験的に考えられるようなワークショップをデザインするのが好きです。



チーム・ティーチング アラン・シンプソン先生

スコットランド出身のアラン・シンプソンです。スコットランドで、電子電気工学の学士を取得し、その後戦闘機のテストシステムエンジニアとして5年間働きました。それから企業チームビルディングとチャリティイベントのコーディネーターを務めてから、日本の民間の英会話学校、次に日本の大手エンジニアリング会社で、英語の教師とトレーナーを務めました。英語教授法の修士号を取得し、ビジネス英語に強い興味があり、研究しています。

アクティビティタイトル▶ 被抑圧者の演劇のエクササイズによるバイスタンダー効果のレッスン

【所要時間】

90分／授業×1～2回

【この活動に最適な人数】

動けるスペースが確保できれば特に指定なし。

【必要なもの】

安全に動けるスペース

考察と記述のためのワークシート

授業手順

01



バイスタンダー効果のデモンストレーション: 全員で大きな輪になる。二人の参加者に輪の真ん中に立ってもらう。一人はリーダーで、もう一人はフォロワー。他の人は全員バイスタンダーとなり(バイスタンダーという言葉は伏せておいても良い)、リーダーとフォロワーの関係が暴力的だと認識したら「ストップ!」と言うように伝える。リーダーは、片方の手を前に突き出し、フォロワーはリーダーの手のひらから30cmあたりに顔を合わせ、この状態を常に保つようにする。リーダーは自由に手を動かしフォロワーはそれに従う。これをしばらく続けると、フォロワーは徐々に疲れた様子になってくる。グループの誰かが躊躇しながら「ストップ!」と声を出すまでに長い時間がかかることが一般的。

02



プロセスと分析: フォロワーにどのような体験だったか尋ねる。大抵の場合フォロワーはもっと早く誰かに「ストップ!」と言って欲しかったと言うだろう。グループ全体で、何が起こっていたのか、なぜ介入するのに時間がかかったのか意見を出し合い分析する。「フォロワーは楽しそうだった。」「次のターゲットにされるのが怖かった。」「他の人が介入してくれるだろうと思った。」「声を出すのが恥ずかしかった。」などの振り返りが出てくるだろう。このディスカッションの後、バイスタンダー効果(Darley & Latané, 1968)について紹介する短いレクチャーを行い、自分たちの生活や社会の中で、バイスタンダー効果がどのように現れるか、例をあげてもらいながらディスカッションを続ける。

03

04



問題解決: 7人程度のグループ(多少前後しても良い)で、デモンストレーションで行ったようなリーダー、フォロワー、バイスタンダーの役を交代で演じてみる。その中で問題を解決し変化を起こすための様々な介入方法を発案し試してみる。7人のグループであれば、最低7通りの介入法を考え、全員が自分の考えた介入方法を試してみられるようにする。

05



応用とライティングアクティビティ: 介入方法を試行錯誤した後、席に戻ってその介入方法を英語で記述する。また、体を使ってシンボリックに発案した解決方法を実際の生活や社会の中で応用するどのような介入方法になるのか考え記述する。課題指示「エクササイズで行ったことを自分の生活、他者の生活、または社会の、実際のまたは想像のシチュエーションと繋げてみよう。」

References

Boal, A. (1985). Theatre of the oppressed (C. A. and M. L. McBride, Trans.). New York: Theatre Communication Group.
Boal, A. (2002). Games for actors and non-actors (A. Jackson, Trans.). New York: Routledge.
Darley, J. M., & Latané, B. (1968). Bystander intervention in emergencies: Diffusion of responsibility. Journal of Personality and Social Psychology, 8, 377-383.

小グループでそれぞれが記述したことをシェアし、ディスカッションする。この後全体でのディスカッションで終わっても良い。



【アクティビティの分析レポート】

教員のコメント▶

演劇エクササイズによる共感的理解

英語で学び思考しようとするとき、言語の限界によって思考が制限されることがあります。体験を通してまず「体で考え」それを振り返りつつ、浮かび上がってきた感情や感覚を表現するために英語を探することは、最初から言葉のみで考えようとするよりも深く広い気づきを得られることがあります。このアクティビティは、人間関係の中で起こりうる人権侵害について、体験的、共感的な理解を提供するものです。参加者は、授業の安全の中で、それぞれの気づきに基づき、創造的な解決方法を実験的に練習することができます。



笠井 綾 先生

学生のコメント▶

体を動かし考え、自分の意見を英語に

この授業では、体を動かしながら、コミュニケーションを取ることで、アクティビティに楽しく人間関係について学びました。どうすれば会社全体が良い方向に進むかを学生間で意見を出し合い、人間関係の仕組みについて考えました。グループディスカッションでは、意見を出した学生が社長、他の学生が社員になり、実際の会社の仕組みについて様々な意見を交換し合いました。

このアクティビティを通して、自分の意見を発表し、他者の意見を聴く事でコミュニケーションを学ぶ事が出来ました。また、先生方も真剣に耳を傾けて聞いてくださり、自分の発言にも自信を持つ事が出来ました。分からない事を先生方に質問し易い雰囲気、先生方の回答もとても理解し易かったです。私は、この授業で人が感じる基本的な感情や様々な人間関係の仕組みについて考えることが出来ました。

英語力の観点では、グループディスカッションや発表で、自分の意見を言ったり、他者の意見を聞いたりする機会が多いので、スピーキングとリスニングに自信ができました。クリティカル・シンキングの観点では、様々な人間関係のシチュエーションを作り、問題解決していく中で、物事を違った視点で捉えることが出来るようになっていきます。実際に体を使って表現する事により、相手が何を考えているのかなど、相手に近い気持ちになり具体的に考える事が出来ました。



国際教養学部2年
久米 康 さん

科目名 数理思考概論

ALの
手法

- 【分類3】熟考する時間
- 【分類3】アクティブ・リスニング
- 【分類4】対話式講義
- 【分類4】ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア

目標とするCT能力

- 1 重要な情報の特定
- 2 情報の正確性を見極め
- 3 問題解決の方法と攻略法
- 4 情報の分類化
- 5 多面的思考
- 6 情報の活用
- 7 演繹的推論

学修成果

学生は、このアクティビティを通して、ブール論理の基本的原則を理解し、問題解決への応用方法を学ぶことができます。学生は与えられた問題を解くだけでなく、ブール論理を使って彼ら自身の問題を書き出すことも求められます。アクティビティの範囲をさらに広げて、学生自身にトランプのセットを作らせ、独自の問題と答えを書かせることもできます。



アンデルソン・パッソス先生

私はアンデルソン・パッソスです。ブラジル出身です。日本には2005年に来ました。鹿児島大学で博士号をとり、ブラジルのIT業界だけでなく、東京の日本企業でSEとしての経験を積んで参りました。2010年から宮崎国際大学に勤務しております。様々なアクティビティを取り入れ、学生が積極的に学び、また批判的に思考できる能力を身に付けられるような授業展開をしています。

目標とする
英語スキル

☆☆☆
speaking



☆☆☆
Listening



☆☆☆
Reading



☆☆☆
Writing



☆☆☆
Vocabulary



アクティビティタイトル ブール論理

【所要時間】

30 ~ 40分

【この活動に最適な人数】

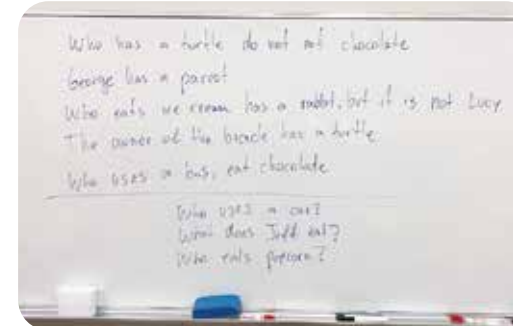
特になし

【必要なもの】

- 1.ハサミ
- 2.9枚1組のトランプを3グループに分け配布する。(各グループに3つのアイテム)
- 3.ブール論理の問題を生徒に解かせる。

授業手順

01



教員がブール論理に関連したシンプルな問題をホワイトボードに書く。問題には質問が明確に示されていないなければならない。問題を解く時間を学生に与える。(既に学生にブール論理の知識がある場合は、このステップをスキップしてもよい。)

02



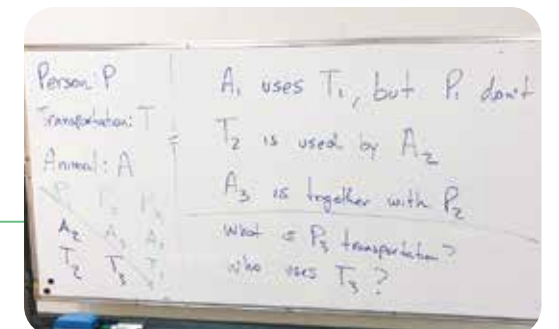
学生に教員のトランプのセットとおなじものを配布する。

03



学生はそれぞれトランプをハサミで切って、自分の持ち札を作る。

04



学生はトランプを使ってグリッドを作り、ブール論理の問題を解く。(ステップ1と同じ問題でよい)

05



難易度を高めるために、教員はより複雑な問題を作って、トランプを追加することもできる。

06



教員は、学生にオリジナルのトランプとブール論理の問題を作成する課題を与える。学生がお互いのカードを交換し、問題を解き合うことで、より楽しい学びとなる。



【アクティビティの分析レポート】

教員のコメント → ブール論理で苦手なものが好きになる



アンデルソン・パッソス 先生

このアクティビティを行うと、教室内が活気づきます。学生はブール論理の仕組みが分かったと非常に喜び、またトランプを使用して問題を解くことで、より面白さが増し、やる気も出て、ホワイトボードの問題にも積極的に取り組むようになります。まずはトランプを使わずに問題を解かせ、トランプを使うことでどれだけ理解しやすくなるかを示すとよいでしょう。

学生のコメント → クイズ感覚で楽しく問題が解ける

この授業では、計算をして答えを出すという数学ではなく、なぜそういう答えになるのか、なぜこうやって答えを求めなのか、など、数理的思考のトレーニングをしました。難しそうに聞こえますが、クイズを解くようで、すごく楽しい授業です。また、数理的思考だけではなく、数学の歴史や、色々な定理の歴史も学習します。日常生活の中にも、予想以上に定理や昔の数学者の考えが利用されています。この授業のお陰で、物事がより効率良く考えられるようになったと思います。どう変えたらいいのか？どう変わるのか？など、社会で役立つスキルも身につきます。

英語の面では、グループワークがとても多く取り入れられ、班で問題を作ってほかの班に出したり、班で協力して答えを考えたりするアクティビティを英語で行うので、スピーキング力が鍛えられます。また、問題文を読むので、リーディング力も同時に身につくと感じました。



国際教養学部1年
林 紘台 さん



国際教養学部1年
矢野 芹菜 さん

事例 04

科目名 情報通信技術概論

ALの 手法

【分類1】フィードバック・アンケート／レポート
【分類1】リアクション・ライティング

目標とするCT能力

- | | |
|---------------|---------|
| 1 重要な情報の特定 | 5 多面的思考 |
| 2 情報の正確性を見極め | 6 情報の活用 |
| 3 問題解決の方法と攻略法 | 7 演繹的推論 |
| 4 情報の分類化 | |

目標とする 英語スキル

☆☆☆
speaking



☆☆☆
Listening



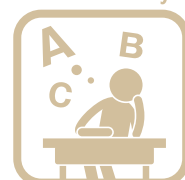
☆☆☆
Reading



☆☆☆
Writing



☆☆☆
Vocabulary



学修成果

このアクティビティの主な目的は、調査の為の質問をどのように作成するかを学生に教え、調査とアンケートの違いについて理解してもらうことです。アクティビティを通し、学生は質問の様々なタイプや、データ分析の邪魔になるような不適切な質問について学びます。



アンデルソン・
パッソス先生

私はアンデルソン・パッソスです。ブラジル出身です。日本には2005年に来ました。鹿児島大学で博士号を取り、ブラジルのIT業界だけでなく、東京の日本企業でSEとしての経験を積んで参りました。2010年から宮崎国際大学に勤務しております。様々なアクティビティを取り入れ、学生が積極的に学び、また批判的に思考できる能力を身に付けられるような授業展開をしています。

アクティビティタイトル

アンケート調査と分析

【所要時間】
90分×2回

【この活動に最適な人数】
特になし

【必要なもの】
N/A

授業手順

Thinking about your questions

There are several kinds of questions that can be used in a questionnaire. Here are some examples of question types and their grammar.

Quantitative questions

Answers to these questions will be related to the quantity of something rather than quality.

- Yes/no or closed questions (use DO, CAN, HAVE, IS):
Did you go cherry blossom viewing this spring?
☐ YES ☐ NO
- Scaled questions (measure a range of amounts):
Have you ever gone cherry blossom viewing?
☐ NEVER ☐ 1-2 times ☐ 3-5 times ☐ 6-10 times ☐ 10+ times

Qualitative questions

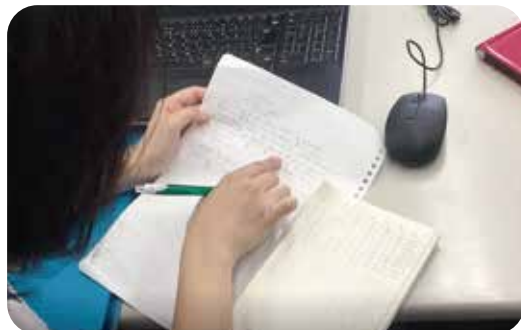
Answers to these questions will measure the quality of something, not its quantity.

- Open ended questions:
How do you feel about cherry blossom viewing? Why?
- Limited choice questions:
Why do you go cherry blossom viewing? (Choose any answer that applies)
☐ It is fun.
☐ I enjoy looking at the cherry blossoms.
☐ I like drinking.
☐ My house/family often goes to go.
☐ I don't go cherry blossom viewing.

教員は、質問のタイプのほか、量的質的データや不適切な質問について学生に教える。



学生は他の学生への質問を作成する。



回答を解析する。

01

02

学生がトピックを選び、教員がそれを確認する。



学生は選んだトピックについてリサーチする。

03

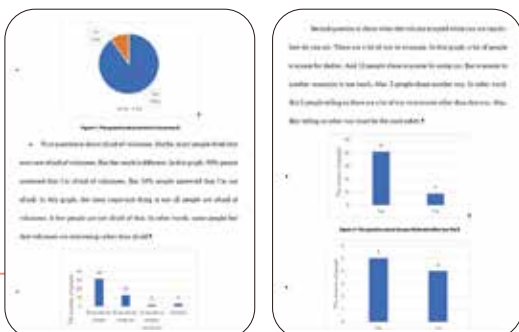
04

05

次の授業

06

07



グラフなどのプレゼンテーション資料を作る。



【アクティビティの分析レポート】

教員のコメント 情報を伝えるためのステップを学ぶ

このアクティビティはそれ単体で、あるいは他のアクティビティと組み合わせて実施することが可能です。今回の場合、コースのねらいの一つは、表計算ソフトの基本操作を教えることです。アンケート調査は、生徒がその結果をグラフ化して分析するためのファーストステップとして行います。



アンデルソン・パッソス 先生

学生のコメント 正確なデータ収集のための質問作り

この授業では、自分自身でtopicを考え、それについての質問を作りデータを集めて、それを元にグラフを作り、まとめを書きました。どのような質問の仕方なら後のデータが作りやすいか、適切な質問の仕方考えることがとても難しかったですが、そこが重要なものとなりました。自分自身で質問リストを作っていく中で、友達や先生が、「ここはこのようにした方がいい」など、アドバイスを沢山くれたので、自分自身とても良いデータ収集をすることが出来ました。約50人にアンケートを取るのが大変でしたが、周りの人が積極的に協力してくれました。

英語力の観点では、取ったデータを元にグラフを作り、それについて、気づいた点や、最後にはまとめを書きます。約800字以上の単語を使って書かないといけなかったのも、もちろん語彙が増えていきますし、文法も分からない時は調べたりするので自然と文法力を身につけることが出来ました。全体的には書く力を伸ばすことができると実感しました。この授業では、自分の興味のあるものを調べていくので楽しく授業をすることが出来き、自分の好きなものを調べることでより一層調べた語彙や文法を覚えることができます。

また、グラフやまとめを書いていく中で、これまで習ったソフトウェアの使い方などを復習し、使っていくので習ったことがしっかり自分に定着します。これは将来、どんな企業に就職しても役立つと思います。今はIT化が進んでいるので、データ収集やそれをまとめてグラフにしたりすることは必要になってくると思います。



国際教養学部1年
盛永 結依 さん

■事例 5	算数科教育法Ⅱ：「算数の模擬授業」		P22
■事例 6	理科教育法Ⅰ： 「児童に「どうして?」「何で?」と聴かれたら? ー小学校理科指導内容の背景になる科学的な知識・ 考え方を理解するー」		P25
■事例 7	こどもの音楽活動： 「ヴォーカルアンサンブルを楽しもう～「もみじ」を歌おう～」		P28

事例集パートⅡ

教育学部

パートⅡでは、教育学部のAL事例を紹介します。最初に教育学部のAL手法の紹介があります。次に3つの事例が紹介されています。各事例では、用いたAL手法とともに学修成果を達成するための授業手順を分かりやすく解説してあります。ALを体験した教員と学生のコメントも掲載してあります。AL手法を用いた教育学部での授業事例をご覧ください。

教育学部で用いているアクティブ・ラーニング(AL)手法(10手法)の詳細について下記に示します。

教育学部のAL手法

① 振り返り・個別の質疑応答

「学んだことを確認し、次へつなげる」ことや授業内容の確認を目的で授業中に口頭で質問・解答させること

② 小テスト・レポート

前回の授業内容あるいは授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的として小テストを課したり、また、学んだことをさらに定着させる目的でレポートを課すこと

③ 調査学習

学生が与えられた課題・テーマについて、授業内外の学習を通して自分で調査・学習させる方法

④ グループディスカッション、グループワーク、グループレポート

学生を少人数にグループ分けし、与えられた課題の解決に向けて協同で取り組ませる方法。2人組によるペアワークを含む

⑤ フィールドワーク

学内外のフィールドを調査・観察場所として、調査や観察を通して情報収集を行わせる方法(学外の施設等の見学を含む)

⑥ 対話・課題型授業

授業において、特定のテーマについて対話やディスカッションを通して理解を深める方法。教員採用試験において試験される特定のルールの下で議論を集約するディベート方式を含む

⑦ ロールプレイング

学生に特定のテーマや状況を与えて演じさせることを通して、それぞれの立場の人等の考え方を体験的に学ぶ方法。教員採用試験等において試験される

⑧ プレゼンテーション

学生がパワーポイント等を用いて、発表資料を作成し、他者の前で自ら発表を行わせる方法

⑨ 指導案作成、模擬授業

教科・教育法科目等において、自ら授業を実践する目的で、学習指導要領を参考に指導案を作成し、具体的な授業を実践させ、教育実践力を育成する方法

⑩ PBL(Problem Based Learning)

学生が自ら問題を発見し、その問題を解決するために様々な努力をする過程で、経験や知識を得ていくという学習方法

科目名 算数科教育法Ⅱ

ALの 手法

⑥ 対話・課題型授業

⑨ 指導案作成、模擬授業

アクティビティタイトル ▶ 算数の模擬授業

【所要時間】

1学生につき45分

【この活動に最適な人数】

10～20名

【必要なもの】

学習指導案、授業で使用する掲示物などの準備物(実物投影機やPCなど含む)
これらを準備するためにも、教科内容と指導法に対する知識は不可欠です。

学修成果

- ① 学習指導要領の熟読により、算数教育の目標を理解すること。
- ② 算数の教科書および指導書をもとにした指導内容そのものの理解と教材研究の視点を身に付けること。
- ③ 導入・展開・終末の授業構成に沿った授業を展開すること。
- ④ 学習指導案を作成すること。

算数・数学教育を担当しています。島根大学大学院総合理工学研究科を修了し、青年海外協力隊に参加しました。その経験から、広島大学大学院国際協力研究科に進学し、途上国の数学学力の実態について研究してきました。一般に、途上国の子どもの学力は低く、基本的な計算の習得は、国際社会の課題の一つとして位置づけられています。現在は、開発途上国の算数・数学教育に興味を持ちながら、日本の算数・数学教育に関する研究にも取り組んでいます。子どもの学力保証はどの国にも共通し、それへの教員養成は欠かせません。途上国とともに、日本の算数・数学教育に貢献できるように研究に励んでいます。



渡邊 耕二先生

授業手順

01

模擬授業に向けて、教科書と指導書を主な教材として、教材研究を十分に行います。

教材研究を踏まえ、学習指導案の作成を行い、何度も教材研究と授業構成について練っていきます。

02



模擬授業を行う学生は、模擬授業の冒頭に学習指導案をみながら、本時の内容と工夫した点や意図について説明をします。

03



授業の導入段階では、子どもが「問い」を持つように適切な発問を考え、子どもの学習意欲が高まる視点を大切にします。

そのためには、本時に必要な既習事項の復習が重要となります。

そして、本時の「めあて」を提示します。

04



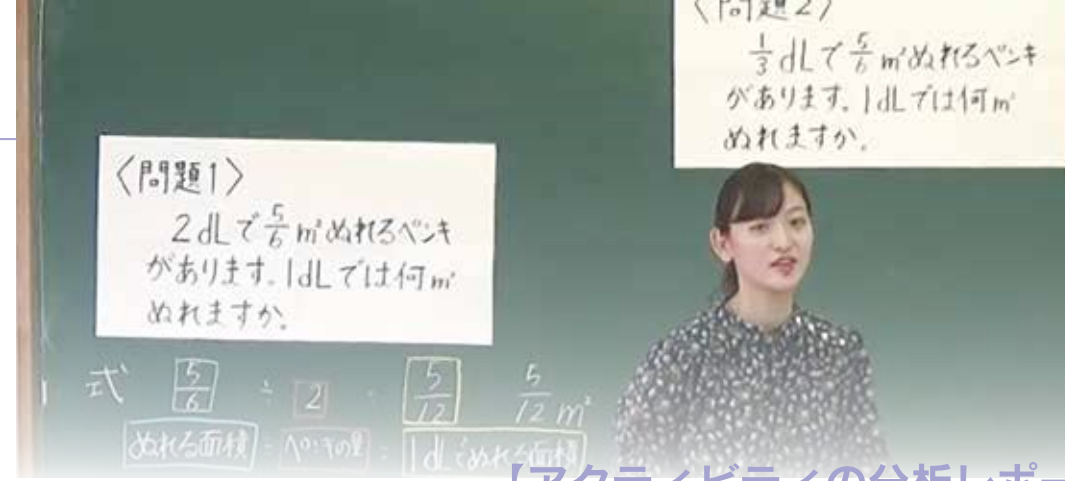
授業の展開段階では、机間指導を行いながら子どもの学びを確認する形成的評価を行い、本時の「まとめ」に向けて、適切な指導を適宜考え、実践していきます。

05



授業の終末段階では、「めあて」に対する「まとめ」を提示し、本時の学びについて振り返ります。場合によっては、学びの定着を図るために、関連する問題を解いていきます。

模擬授業終了後には、児童役であった学生とともに、授業の改善点などを議論し、授業力向上への糸口を掴んでいきます。



【アクティビティの分析レポート】

教員のコメント

学習指導案の作成を模擬授業による実践



渡邊 耕二 先生

模

擬授業は、受講生は全員が行うことを基本としています。人数が多い場合には、2人グループとなり、それぞれが同じ指導内容の授業を作るために、学習指導案を作成します。そして、2人の学習指導案をみながら、授業を洗練させます。そして、当日にくじで授業者を決定します。

学習指導案の作成を通じた準備段階では、指導内容の正確な理解はもとより、準備物の正確性、ICT機器の使い方やその効果を考えます。また、練習を繰り返し、本番の模擬授業に取り組んでもらいます。学習指導案の作成においては、正しい日本語や一文一文の意図が明確な文章になるように指導します。これは、学生の文章力の向上を意図しています。

本番の模擬授業では、声の大きさ、言葉遣い、授業の雰囲気、教具やICT機器の使い方、個別指導と一斉指導、自力解決と集団解決の場面の設定、机間指導など、多くの視点から学生の取り組みをみています。学生の中には、十分な準備ができていたが、本番のライブ感がもう一歩と子どもを引っ張っていく点に課題がみられたり、ライブ感は十分であっても、事前準備が不十分で正しくない知識を指導する場合がみられるなど、様々な課題が見つかります。

学生の模擬授業は、ビデオ撮影し、振り返りの材料としています。将来、教壇に立つときには、日々の授業実践を動画などで記録し、自己研鑽する場合もあると思います。そのようなことを想定して、動画を活用した振り返りをしています。

教材研究から始まり、学習指導案の作成、模擬授業の実践、その振り返りは、長期的な取り組みです。また、他の学生の授業をみることは、様々な授業の意図や方法を知る良い機会です。個々の学生の具体的な課題は違いますが、その改善に向けて、時間をかけることと多面的な視点を持つことの大切さを実感してほしいと思います。

学生のコメント

子どもが問いを持つ授業

この授業では、指導案作成や模擬授業を学びました。これを通して授業展開や指導の仕方について考えることができ、授業の実践力を身に付けることができたと思います。指導案を作成するときには、学生同士や先生と何度も話し合い、設定した学年の発達段階を配慮しながら授業構成を考えていきます。初めに自分でじっくりと授業構成を考えてから、他の学生や先生と授業についてさらに深めることで、自分にはない様々な考えを得ることができました。模擬授業の際には、声の大きさや授業の雰囲気、指示の出し方などに気を付け、実際に児童に指導をするように授業をしました。実際は大学生に授業をするのですが、授業を受けている学生は児童になりきって、児童の視点で授業の改善点を考えます。授業をすることと授業を受けることでは、違った視点で授業について考えることができます。「もし自分がこの授業をするならこのように指導するだろう」と自分事として捉えながら、全員で授業について考えることができました。このような流れを通して授業構成や指導の課題が見つかり、小学校教員になるための指導力の向上に役立つと思いました。



教育学部3年生
濱口 真彩さん

科目名 理科教育法Ⅰ

ALの
手法

- ② 小テスト・レポート ③ 調査学習
⑥ 対話・課題型授業 ⑧ プレゼンテーション

アクティビティタイトル

児童に「どうして?」「何で?」と聴かれたら?
ー小学校理科指導内容の背景になる科学的な
知識・考え方を理解するー

【所要時間】

1学生につき20分(15分発表、5分質疑)
※それ以外に、発表に向けての事前準備、検討の時間が必要。

【この活動に最適な人数】10～20名

【必要なもの】(例 ホワイトボード、配布資料等)

小学校学習指導要領理科編、参考書籍(小学校・中学・高等学校教科書、資料集
など)、必要に応じて実験器具、プレゼンテーションで使用する掲示物などの準
備物(実物投影機やPCなど含む)

学修成果

- ① 小学校理科の指導内容及び指導内容の背景にある科学的知識・考え方を
理解すること。
- ② 指導内容の背景にある科学的な知識について、論理立てて説明すること。
- ③ 分かりやすく説明するための資料(ワード及びパワーポイント資料)を
作成すること。

「理科」や「理科教育法」、「生命と科学」など自
然科学系の科目を担当しています。九州大学農
学部生物化学研究室を卒業後、高校講師として
生物学の授業を教え、修士課程から科学教育の
研究を行なっています。

日本の子どもたちは、国際的に見て科学的リ
テラシーは上位にある反面、理科に関する情意
面(興味・関心、価値を置く程度など)が低いと
いう課題があります。しかし、私たちの身の回
りには科学技術が溢れており、その原理・仕組
みを知ることは、より賢く、豊かに生きること
につながっていきます。理科の「楽しさ」ととも
に、その「価値」や、科学的なものの見方・考え
方を伝えることのできる教員養成、教育実践につ
いて考えていきたいと思っています。



坂倉 真衣先生

授業手順

01

学習指導要領に書かれた小学校理科の指導内容
を把握し、1人1単元で担当する単元を決めます。



作成した資料、発表内容は、事前に担当教員及び
同じ日に発表する学生たち同士で、説明に科学
的な誤りはないか、児童にも分かりやすく理解
されるものになっているかなどについて確認・
検討をします。



02

それぞれ担当となった単元の指導内容を教科書、
指導書などを使って理解し、さらにその背景にあ
る科学的知識について中学校～高校基礎までの
知識を活用して説明できるようにします。

※例えば、小学校第3学年の粒子分野「物と重さ」の単元
では、児童が身に付ける知識・技能は「物は、形が変わっ
ても重さは変わらないこと」「物は、体積が同じでも重さ
は違うことがあること」ですが、それに加え、「どうして
そうなるのか」ということも化学の知識・考え方をうい
て説明できるようにします。すべての物質は分子・原子
から構成されているという中学～高等学校以降の知識・
考え方が必要なので、それを復習するとともに、小学校
では「粒子(粒)」という概念で考えるため、小学生の実態
も踏まえながら、「どうして?」「なんで?」と聴かれた際
に、分かりやすく説明できるように検討していきます。

03



04



発表日当日は、司会進行も学生が行います。発表
者は、1人20分(発表15分、質疑応答5分)の時間
で、パワーポイントや準備・作成した教材を用い
て発表します。

05

発表者以外の学生は、指導内容及びその「どうし
て?」「なんで?」を説明するための生物学、地
学、物理学、化学の知識・考え方を自分自身が理
解できたか、また発表者の発表内容がそれを論
理的に説明するためにしっかりと検討されたも
のとなっていたかなどについて検討しながら、
聴きます。

06

質疑応答の時間では、発表内容について分か
りにくかった点、確認をしたい点のほか、さら
に「どうして?」「なんで?」と疑問に思った点な
どを質問します。質問には発表者が答えますが、
発表者が答えられなかったり、高校基礎を超
えるような内容については、担当教員が補足や解
説を行います。

07

授業後の課題として、全受講生が指導内容と、指
導内容の「どうして?」「なんで?」についてを説
明するレポートを作成・提出します。

教員のコメント ▶ 「どうして?」「なんで?」から始まる理科教育



坂倉 真衣 先生

発表は1人1単元を担当し、受講生全員が行います。1人1単元を担当することで、小学校理科の指導内容に対して全学生が「どうして?」「なんで?」という疑問を持ち、それを中学～高等学校程度までの知識を活用して科学的に説明できる能力を身に付けることを目標としているからです。小学校理科は、地球・生命・粒子・エネルギーという4つの分野からなり、それらは高等学校以降の地学、生物学、化学、物理学の基礎となるように構成されています。小学校教員として理科を教えるためには、地学、生物学、化学、物理学の幅広い知識・考え方が必要となります。

特に化学・物理学を苦手とする学生が多いので、粒子・エネルギー分野の単元を担当することになった学生の中には、どのように説明すれば良いのかが初めは全く分からなかったり、分子・原子、酸・アルカリ、イオン化傾向など用語は断片的に暗記していてもそれが何なのかを説明できない(知識を活用できない)学生も見られます。この学習では、「どうして?」「なんで?」の答えを説明するという明確な目標があるので、その目標を目指して、知識をただ断片的に暗記するだけでなく、知識を組み合わせ論理立てて説明ができるようにしていきます。また、中学～高等学校までの知識・考え方をを用いて理科の背景にあることを説明していくことで、小学校での学習がどのようにつながっていくのかの系統性も理解することができます。

発表を重ねるうちに、学生たちからは指導内容に直接関係すること以外にも様々な疑問が生まれてくるようになります。理科は、磁石や電気、天気、月・星、昆虫などとても身近な現象を扱う教科です。だからこそ児童は、たくさんの「どうして?」「なんで?」という疑問を持っています。その疑問に寄り添いながら、それをともに考え、探究していくことのできるような授業や指導を行う上で、まずは自分自身が様々な現象を「どうして?」「なんで?」という疑問を持ち考えてみることは非常に大切なことです。

発表を行うのは1人1単元のみですが、その1単元の内容について徹底的に考え、その背景にある地学、生物学、化学、物理学の知識・考え方を理解、説明することを通して、単元が変わっても当該分野の知識を活用し、論理的に説明できる能力を身に付けてほしいと思っています。分かりやすい授業は、教員の確かな知識に裏付けられて成り立ちます。この学習で身につけた能力は、理科教育法Ⅱ及びⅢにおいて、指導案を作成し、児童に向けた模擬授業を行なっていく上での基盤となっていきます。

学生のコメント ▶ 子どもの疑問に答える準備

この講義では、小学校理科で扱う全ての単元について、学生一人一人が「どうして?」「なんで?」という疑問をもとにそれを解説する授業を行いました。他の学生にとって分かりやすい授業を展開するために、まずは発表者一人一人が事前準備を行いました。まだ授業を行うことに慣れておらず、初めは自分の授業がうまくいくのか、自分の説明で理解してもらえるのかなど、様々な不安がありました。しかし、同じ日に授業を行う予定の学生達や先生と一緒に何度か内容を共有する機会があったので、単元に関する様々な視点からの疑問を見つけることができました。また、それらの疑問を調べ解決することで自分の知識に自信を持ち、授業本番ではその内容を論理立てて説明することができました。授業後にはその日に学んだことをレポートで提出するので、分からないところは学生同士で教え合うことでその単元の内容をより深く理解することができました。

この講義を通して、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うための基礎的知識や方法、技術を身につけることができました。また、児童は「どうして?」「なんで?」という疑問が生まれることによって学習の意欲が高まるので、私達学生は日頃から物事に対して疑問を持ち、それらを説明できるようにすることが重要であることを学びました。

教育学部2年生
西村 まりあ さん

科目名 こどもの音楽活動

ALの
手法

- ① 振り返り・個別の審議応答 ② 小テスト・レポート
④ グループディスカッション、グループワーク、グループレポート
⑥ 対話・課題型授業 ⑧ プレゼンテーション
⑩ PBL (Problem Based Learning)

学修成果

- ① 音楽知識の理解を深め、歌唱の表現技能を向上させる。
② アンサンブルによる音の重なる響きを味わい感性を高めることができる。
③ とともに音楽を作り上げる過程を学び、表現する楽しさを知る。
④ 仲間との音楽づくりを通して、コミュニケーション力を伸ばす。
⑤ 自己評価と他者評価による、批判的思考力(クリティカルシンキング)の育成を図る。

アクティビティタイトル ▶ 「ヴォーカルアンサンブルを楽しもう
～「もみじ」を歌おう～」

【所要時間】 90分／授業

- ① 授業内容(ヴォーカルアンサンブル)の提示(15分：授業内)
② グループ分け(アトラダムな組み合わせ)(10分：授業内)
③ グループ協議(90分：授業内 各グループ授業外)
④ グループ練習(30分：授業内 各グループ授業外)
⑤ グループ発表、グループ評価、自己評価(90分：授業内)

【この活動に最適な人数】 4名×10グループ 合計40名

【必要なもの】 ・楽譜 ・授業レポート ・グループ評価表
・グループ学習個人評価表(グループ協議の記録も含む)

音楽科の指導についての学修を「音楽科教育法」「ピアノ・声楽」「音楽」「音楽と遊び」「保育内容指導法(音楽表現)」等を通して学生とともに取り組んでいます。また、音楽療法士としての資格を活かした音楽活動についての研究やICT教材を活かす音楽科の指導についての研究などにも関心を高くもっています。音楽は内なる感性を求めるものではありませんが、その表現活動ではグループでの学修は欠かせないものであり、アクティブラーニングでの学びは重要です。



日高 まり子先生

授業手順

01

ヴォーカルアンサンブルについて説明を聞く。
発声や発音など歌唱の技術について学び、体験する。

02

「もみじ」の旋律を理解し、各パートを練習する。
歌詞や旋律の特徴など曲想を感じて歌唱練習をする。

03



グループで協議した内容をふまえて、各グループでの練習をする。(授業外での練習も含む)

04



グループ分けをして、その演奏について
グループ協議をする。

05



06



グループ発表を学生が相互評価する。自己評価を
まとめる。



グループ発表をする。



【アクティビティの分析レポート】

教員のコメント ▶ 音楽表現を作り上げる過程を学ぶ



日高 まり子先生

このアクティビティの例は授業の中の歌唱活動の一コマで、身体表現活動や
ペープサートやパネルシアター、器楽演奏など様々な題材を使って授業に取り
組んでいます。各アクティビティでのグループ編成においても毎回様々な学生ど
うしのグルーピングになるように配慮しています。グループディスカッションでは表現
活動での様々なアイデアを出し合いながらひとつの音楽を作り上げていく過程を体
験します。枠組のある楽曲の構成を自分たちの表現する音を創造しながら作り上げて
いく作業は、相互の感性を感じあいコミュニケーションしていかなければなりません。
作品発表では、響きあう音を自己表現し、鑑賞しあう空間を共有します。

音楽の学修においては表現活動は大きな学修要素であるため、アクティビティは必
然的な学習活動といえます。その中において、ただ活動をするのではなく学修の意図
をもった主体的な活動となることが大切です。そのためにはグループ活動の評価票を
活用して、自己評価と他者評価を題材ごとに明確にし、学修を評価することでより学修効果を高めていくことができま
す。音や音楽はノンバーバルなコミュニケーションを可能とするものではありませんが、ともに音楽を表現し演奏して感
じあえる空間をアクティビティな空間としてとらえバーバルなコミュニケーションとして展開していくことも可能に
させます。

学生のコメント ▶ 4人で作り上げるアンサンブル

この授業では、学級集団や学校集団で行われる音楽活動の基礎技術の習得や幅
広い合唱曲や器楽曲等を体験し音楽活動の実施方法を学んでいます。この「
ヴォーカルアンサンブルを楽しもう」の活動では「もみじ」を4人1組で歌うことを通
して、歌唱の表現技能を向上させ、表現する楽しさを知ることができました。

初めのうちは、人の前で歌うということに抵抗がありました。しかし、仲間と共に上
手くいかないところを探し合い、意見を出し合ってよりよい音楽を作り上げて行く中
で、表現する楽しさを知りました。全員で歌うのではなく、4人1組という少人数グ
ループで活動することで、お互いの声を聴きあったり、意見を出し合ったりしやすい
環境でした。これによって、大人数の中では気づかない、他人や自分の声に気づき、お
互いに高め合うことができたと思います。

教育者になるにあたり、まずは自分自身が体験することによって、子どもの気持ち
に寄り添った教育や保育を行うという視点を持つことができました。

また、毎時間の最後に自己評価を行い、次の練習につなげることができ、発表の時に
は他のグループの評価をすることで、他人のいい所を見つける練習になりました。



教育学部2年
平原 桃花さん

教育学部2年
堀 友歌さん

事例集パートⅢ

産業連携

宮崎国際大学(MIC)の産業連携

ALを使った地方銀行における英語教育
Alan Simpson, Lloyd Walker, Cathrine-Mette Mork

本学は英語でのAL法を使った講義を行っています。このAL法は学生だけでなく、地域企業の英語教育でも効果的な方法です。ここでは、本学教員が行ったALを使った地方銀行の宮崎銀行における英語教育の例を示します。

宮崎銀行から、外国人の口座開設時の英語によるサポート方法などを新人行員および支店の先輩行員に教授して欲しいとの要請がありました。そこで、MICから宮崎銀行に講師を派遣して、ATM(現金自動預け払い機)での日本語表記の操作パネルの英語の意味などを教えました。さらに、行員は、解約方法、預け入れ、他口座への送金、およびその他の取引などについてのお客様への英語での説明方法について学びました。

この様に、MICの英語でのAL法は、地域でも役立っています。



講義資料の例

操作キー	Button (Meaning)
クレジット・カード	Credit card withdrawal (withdraw money from your credit card)
お振り替え	Account Transfer (move money to another account)
暗証番号変更	PIN change (change your ATM Personal Identification Number)
限度額変更	Bank account withdrawal limit change (request to change the bank account withdrawal limit)
カードローン	Bank loan (withdraw money using a bank loan)
カードローン返済	Bank loan repayment (repay some of the bank loan)
お振り込み	Transfer (transfer money to a bank account at another bank)
振込カード登録	Transfer card registration (create a card for easy transfers to a specified account)
お引き出し	Withdrawal (withdraw (take out) cash)
ご預金	Deposit (deposit (put in) cash)
残高照会	Balance inquiry (check how much money is in your account)
通帳記入	Bank book update (passbook) (print a record of recent transactions in your bank book)
定期ご預金	Savings account deposit (deposit (put in) cash into your savings account)

講義



Alan Simpson



Lloyd Walker



Cathrine-Mette Mork

編集後記

新学習指導要領では小学校の英語教科化、中学校・高等学校での英語コミュニケーション能力の育成、および教育方法としてのALによる主体的、対話的な深い学びが重視されています。高等教育においてもALが取り入れられ、授業内でグループワークやプレゼンテーションなどの授業活動が頻繁に使用され、授業外ではインターンシップや海外研修などの利用が増え、学生が主体的に学修する取組が実施されて始めています。

宮崎国際大学は、平成6年度の開学以来、建学の精神である「礼節・勤労」の人材養成方針に基づいた国際的リベラル・アーツ教育を軸に、先進的にALを取り入れた高等教育を実施してきました。本学のAP事業では、伝統的に実施してきたALを発展させることを目的として、ALを体系化し、学修効果を明確にした効果的なALの提示・普及を目指しています。

その目的を達成するため、AL事例集Vol. 2を昨年度の引き続き発行しました。今年度は、全学的な事例を掲載しました。特定の学修成果に焦点を当てたALを紹介し、また、他大学の教員も参考になるような具体的な手順も記載しました。さらに、教員及び学生の生の声を掲載することで、ALを実施する意図やその成果が具体的に感じられるようにしました。本冊子により、先進的にALに取り組んできた本学のALの手法を知って頂き、AL手法が高等教育の教育効果向上に貢献できれば幸いです。

文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP) テーマⅠ・Ⅱ複合型 アクティブ・ラーニング・学修成果の可視化 宮崎国際大学 アクティブ・ラーニング事例集 Vol.2(国際教養学部・教育学部)	
発行日	令和2年2月
発行者	宮崎国際大学 〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地 TEL: 0985-85-5931
印刷者	株式会社 宮崎南印刷
問合せ先	宮崎国際大学 AP事務局 アセスメントオフィサー 保田 昌秀・AP事務補佐 西中 雅栄

本書に記載された記事の無断転載・複製を禁じます